

# 総合日本語コース報告（2006年10月～2007年9月）

濱田美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に新設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に、初めて本コースの修了生を送り出し、2006年10月に3期目の学生を迎えた。

以下、2006年度秋期（2006年10月～2007年3月）及び春期（2007年4月～9月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

「2006年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は5人で、5人全員が総合日本語コースを受講した。5人の国・地域別の内訳は、インドネシア、ウズベキスタン、中国、ハンガリー、ロシア各1人となっており、所属は全員人文学部である。なお、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となったが、短期留学生の受講状況等については別に報告する。（「短期留学生報告」参照）

総合日本語コースの授業科目は秋期と春期、各期7科目を提供している。これら7科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。

2006年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、一番多く受講した学生で10科目（秋期6，春期4），7科目（秋期5，春期2）（秋期4，春期3）が2人，5科目（秋期4，春期1）（秋期2，春期3）が2人だった。来日したばかりの秋期に日本語の科目を多く取り、大学生生活に慣れてきた春期には学部の専門科目を多く受講する傾向にあるため、全体的に秋期のほうが総合日本語コースの受講科目数が多くなっている。

## 3 担当者

秋期は、岩本阿由美、遠藤祥子、高島智美、中河和子、藤田佐和子、松岡裕見子の6人の謝金講師が授業を担当した。春期は、遠藤祥子、高島智美、中河和子、深川美帆、藤田佐和子、松岡裕見子の6人の謝金講師が授業を担当した。また、いずれの期も、センター専任教員の濱田美和がコーディネートをを行った。

## 4 スケジュール

秋期は、学部の授業開始時期より1週間ほど遅らせ、2006年10月12日（木）～2007年2月9日（金）を授業期間とした。2006年12月26日（火）～2007年1月4日（木）の間は冬季休業のため、2007年1月19日（金）は大学入試センター試験の準備日のため、休講とした。

春期は、2007年4月12日（木）～7月31日（火）を授業期間としたが、7月2日（月）～7月4日（水）の間、麻疹対応のために全学臨時休講となった。この休講分の補講を実施するため、スケジュールの調整を行い、8月1日（水）にも授業を行った。

学期ごとに、コーディネーターがオリエンテーションを行った。オリエンテーションの実施日は、秋期は2006年10月11日（水）、春期は2007年4月9日（月）である。オリエンテーションでは、学生

に各授業科目の目的, 理解達成目標, 授業計画等を掲載した授業概要の冊子（授業概要は留学生センターホームページ上にも掲載）を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後1週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは、上級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。

表1 秋期（2006年10月～2007年3月）総合日本語コース授業概要

授業科目名 (開講曜限)	担当	授業概要
読解 I (木曜 2 限)	藤田	日本人向けに書かれた文章の読解を通して、大学での学習や研究に必要とされる実践的な日本語読解能力を身につける。主教材として『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』(The Japan Times) の奇数ユニットを使用する他、適宜テーマに合った生教材も取り入れ、中上級の表現、文法、語彙を習得する。
読解 II (木曜 3 限)	遠藤	日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物を扱い、それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手だてを見つける。特に留学生にとって必要な専門書、論文、教養書を読み解く技能を多面的に養うとともに、ブックレポートの際の基本的技術をマスターする。
作文 (火曜 2 限)	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書く力をつける。文章を書く練習は、主にコンピュータを使って行い、ワープロ文書でのレポート作成方法も同時に学ぶ。
聴解 (月曜 3 限)	岩本	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加するなどの大学生活や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。『毎日の聞きとり 50 日中級 plus40』下 (凡人社) をテキストに使用し、テキストにそった聞き取り練習を毎週進める他、テレビ番組などを用いた練習を行う。
会話 (火曜 3 限)	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、ことがらなど様々な題材について、日本語で的確に説明する力を養う。
漢字 (水曜 3 限)	高畠	日常生活や大学の講義で用いられている漢字の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol. 1, Vol. 2 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
日本文化 (水曜 4 限)	中河	留学生として日本社会を分析する試み (情報の読みとり、整理など) を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

\* 2 限 10:30 ~ 12:00, 3 限 13:00 ~ 14:30, 4 限 14:45 ~ 16:15

表2 春期（2007年4月～2007年9月）総合日本語コース授業概要

授業科目名 (開講曜限)	担当	授業概要
読解Ⅰ (火曜4限)	藤田	日本人向けに書かれた文章の読解を通して、大学での学習や研究に必要なとされる実践的な日本語読解能力を身につける。主教材として『生きた素材で学ぶ中級から上級への日本語』(The Japan Times)の偶数ユニットを使用する他、適宜テーマに合った生教材も取り入れ、中上級の表現、文法、語彙を習得する。
読解Ⅱ (水曜3限)	遠藤	日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物を扱い、それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手だてを見つける。特に留学生にとって必要な専門書、論文、教養書を読み解く技能を多面的に養うとともに、ブックレポートの際の基本的技術をマスターする。
作文 (火曜2限)	松岡	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで、レポートや論文を書く力をつける。文章を書く練習は、主にコンピュータを使って行い、ワープロ文書でのレポート作成方法も同時に学ぶ。
聴解 (月曜2限)	深川	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
会話 (火曜3限)	松岡	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、ことがらなど様々な題材について、日本語で的確に説明する力を養うとともに、アカデミック・ジャパニーズに必要なスピーチや討論の基礎力をつける。
漢字 (木曜3限)	高島	日常生活や大学の講義で用いられている漢字の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol. 1, Vol. 2(凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
日本文化 (水曜4限)	中河	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読みとり、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。

\* 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の7授業評価を参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優(80点～100点)、良(70点～79点)、可(60点～69点)、不可(59点以下)で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。学生への成績の通知は、9月の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了時に、成績を記した履修証明書の発行を留学生センター長名で行っている。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2007年7月23日（月）～31日（火）、調査対象：2006年度日本語・日本文化研修留学生（5人））を行った。この結果を表3に示す。

表3 総合日本語コース（日本語・日本文化研修留学生）インタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7科目でちょうどよかった。今のままで十分だと思う。（4人）</li> <li>・日本語の文法についての科目があると良いと思う。現在の「読解I」よりも少し難しい、日本語能力試験1級レベルの文法の授業があるといいと思う。</li> </ul>
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうどよかった。（5人）</li> </ul>
3. 総合日本語コース：その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生と学生のコミュニケーションが取れていて、学生中心の授業の進め方が良かった。（母国の大学は、講義形式で、先生が一方向的に話すタイプの授業だった。）</li> <li>・宿題を出さなかったときなど、もっと教師が厳しく注意してもよいと思う。</li> </ul>
4. 自身の日本語力について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学中に伸びたと思うが、まだまだ足りない。特に、聞く力と話す力が伸びた。話すとき、書くときの表現が辞書を引かないと出てこないことが課題。</li> <li>・伸びたと思う。特に、会話と漢字の力が伸びたが、読解力はあまり伸びなかった。将来、通訳になりたいので、留学中に日常会話は上達したが、フォーマルな会話の力はあまりつかなかったので、これを伸ばすのが今後の課題。</li> <li>・伸びたと思う。特に、会話、また他の力は伸びたが、授業の中で、具体的な文法の練習がなかったので、文法の力は国にいたときと変わらないと思う。帰国してからも、日本語の勉強が必要。</li> <li>・伸びたと思う。特に会話力がついた。ただ、漢字は日本へ来てから、コンピュータで入力することが多く書かなくなったので、忘れてしまった。</li> <li>・伸びたと思う。特に、会話、レポートなど作文を書く力がついた。</li> </ul>
5. 富山での留学生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すごく楽しかった。日本人の友達もできた。日本人学生とのコンパにも積極的に参加した。</li> <li>・勉強になった。忙しかったが、良かった。</li> <li>・良かった。いろいろな授業があるので、自分のレベルに合わせて授業を選ぶことができ、良かった。また、ある程度自分の時間も取れるから、大学以外で日本の生活、文化に触れるなど、いろいろな勉強ができて、富山大学のプログラムは良かったと思う。希望としては、予算や時間の都合もあると思うが、日本人学生と留学生の交流の機会がもっと多くあったら良かったと思う。</li> <li>・楽しかった。他の大学の日本語・日本文化研修留学生からの情報では、他の大学では学部の日本人学生との交流があまりないと聞くので、富山大学を選んで良かったと思う。</li> <li>・良かった。大都会より田舎のほうが好きなので、富山は自然が多く、暮らしやすかった。</li> </ul>

まず、コースの日本語の科目数やレベルについては、満足しているという意見が多かった。ただ、「文法の授業があるといいと思う」、「授業の中で、具体的な文法の練習がなかったので、文法の力は国にいたときと変わらないと思う」といった「文法」練習の不足に関する意見が2人の学生からあり、「文法」

の指導をコースの中にどのように取り入れるかについて検討の必要がありそうである。次に、自分自身の日本語力の伸びについては、話す力を中心に日本語力の伸びを実感していることがわかる。最後に、富山での留学生活については、全員「良かった」「楽しかった」という意見で、非常に満足している様子が窺えた。

## 8 おわりに

総合日本語コースは初年度（2004年度）の受講者が1人、2年目（2005年度）が4人、そして3年目の2006年度には、日本語・日本文化研修留学生在が5人に増え、さらに協定校からの短期留学生7人もコースに参加することになり、年々受講者数が多くなっている。このことにより、総合日本語コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級クラスとして開講しているが、授業内容やレベルは徐々に総合日本語コース受講者に合わせたものへと変化してきている。しかしながら、上級レベルの日本語クラスでは、学生一人一人の日本語力、また専門分野等によるニーズの違いもあるため、受講者数が増えることにより、一人一人へのケアが難しくなる恐れもある。2006年度についても、春期の「漢字」の授業において、他の受講者とは異なる教科書を使っての学習を希望した学生がいたが、教室内での指導は困難であるため、本人と相談して、日本語教育部門の教員が交代制で実施している「日本語相談」の中で指導を行うことにした。この学生は非常に熱心に漢字学習に取り組み、大変良い結果に終わった。今後も、コース以外での支援体制も視野に入れながら、コース運営の方法や教育内容の検討に努めたい。